

授業科目(ナンバリング)	児童心理学 (DA209)			担当教員	柳 智盛		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本講義では、発達の視点を中心としながら児童期の子どもたちに起こる様々な現象について、心理学的な理解を深めることを目標とする。また、就学期である児童特有のこころの問題を理解した上で、その支援についてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家の立場からの支援を考えていく力を培う。また、人として必要な幅広い教養的知識の理解に努め、実践することができるようになることを目標とする。							③、⑤、⑦、⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	児童期の発達にまつわる心理学的諸理論を理解し、それを用いて説明ができる。			・定期試験 ・課題レポート		30% 10%	
情報収集、分析力	現代の児童期特有の諸問題及び取り組み方について調べ、それに対し指摘できる。			・定期試験 ・課題レポート		15% 5%	
コミュニケーション力	児童へのかかわり方やこころの問題に対する支援について、ディスカッションを通して自分の考えを表現することができる。			・グループディスカッション		5%	
協働・課題解決力	児童に対する支援としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家の立場から自らの考えを述べるができる。			・定期試験 ・グループディスカッション		15% 5%	
多様性理解力	児童の多様性を理解し、専門家として具体的にどのように接していくのかなどの支援を考える力を培うことができる。			・定期試験 ・課題レポート		10% 5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の成績を70%とし評価する。課題レポートは、適宜授業終了時の感想シートの内容を20%とし評価を行い、次回の授業で課題レポートの内容をフィードバックする。グループディスカッションは、発言や参加度などを含めて授業中の受講態度等を10%とし評価し、担当教員からのコメントを通してフィードバックする。 ・定期試験は、選択形式と記述形式で問う。選択形式では、児童心理学に関する基本的な概念についての理解を評価する。特に各発達段階における様々な課題についての理解がどの程度できているかを評価する。記述形式では、設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べるができるかを評価する。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要：乳児期から老年期までの生涯発達過程における心理学的理解、発達を阻害する諸要因についての理解と適切な援助のあり方についての理解、2点について教科書の内容と担当教員の実務経験より講義を進める。 ・授業の進め方：基本的にはテキストに沿った講義を中心とするが、適宜プリントを配布するなどして理解を促す。また、参加人数に応じてグループワークによるディスカッションなども積極的に取り入れ、参加型の学修を目指す。 ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 							
教科書・参考書							
<p>教科書：谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編（2004）『幼児・児童心理学』一藝社</p> <p>参考書：授業の中で適宜紹介していくため準備は必要ないが、復習に役立てること</p> <p>指定図書：泰一土・平井誠也編（2003）『児童心理学要論』北大路書房</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>子どもの発達に関心をもって授業に取り組むこと。授業でも日常的なトピックを随時取り入れていくので、日頃から子どもに関するニュースなどを積極的に視聴して常に社会に目を向けておくこと。遅刻・授業中の私語等学習態度が悪い者には厳しく対処する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	児童心理学とは何か (1)	児童心理学の課題、そして発達の原理について理解する。	予：児童心理学とは何かについて調べる。 復：児童の発達を考える。
2	児童心理学とは何か (2)	発達を規定する要因、発達の研究法、及び発達にかかわる学習過程について理解する。	予：第1章を読む。 復：発達を規定する要因を理解する。
3	身体・運動の発達	乳幼児から児童までの身体運動発達の諸相、基本的な生活習慣の形成について理解する。	予：第2章を読む。 復：基本的な生活習慣の形成を理解する。
4	知覚・認知の発達	乳幼児の知覚や認知の世界を概観した上で、児童期の認知発達について理解する。	予：第3章を読む。 復：子どもの認知発達の諸理論を覚える。
5	記憶・学習の発達	記憶や学習の発達の諸相について、また学習と動機づけの関係について理解する。	予：第4章を読む。 復：記憶や学習のメカニズムを覚える。
6	言語の発達	乳幼児期の話しことば、書きことばの発達について理解する。	予：第5章を読む。 復：言葉の発達の様相を理解する。
7	知能の発達	知能とは何か、どのように発達するのかについて理解し、知能の個人差について学ぶ。	予：第6章を読む。 復：知能とは何かについて考える。
8	情緒の発達	情緒とは何か、情緒の種類とその発達、そして母子関係と愛着について理解する。	予：第7章を読む。 復：情緒理解の重要性に注目して考える。
9	人格の発達	人格とは何か、人格の発達理論や形成要因について理解し、家族と性格形成の関係について学ぶ。	予：第8章を読む。 復：家族関係と性格形成の関係を理解する。
10	社会性の発達	社会性とはどういうものであるか、社会性の発達の諸相、社会的行動の理論について理解する。	予：第9章を読む。 復：社会性の重要性を認識して考える。
11	道徳性の発達	道徳性とは何か、道徳性の発達について理解し、子どもの道徳性と現代の子どもを取り巻く諸問題について考える。	予：第10章を読む。 復：子どもの諸問題と道徳性の関係を理解する。
12	行動問題と指導	行動問題とは何か、行動問題の発見と診断の方法について理解し、どのような指導を行うべきかについて学ぶ。	予：第11章を読む。 復：行動問題について理解する。
13	児童・生徒のこころの問題	就学期における児童・生徒の精神保健について考えながら、適応と不適応とは何かについて理解し、診断・治療と教育の有り方や子どものメンタルヘルスについて学ぶ。	予：児童・生徒のこころの問題について調べる。 復：児童・生徒のこころを理解する。
14	児童・生徒のこころと生活の指導	これまでの学習をふまえ、家庭、学校や地域での生活指導のあり方について考えた上で、こころの問題への支援について学ぶ。	予：第12章を読む。 復：子どもへの環境の影響を理解する。
15	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーとの連携	児童・生徒の身体的・精神的な発達を理解した上で、生徒指導・教育相談・進路指導等、支援に係わる専門職の役割及び連携について学ぶ。	予：児童・生徒への支援に関連する専門職について調べる。 復：講義全体を振り返る。
16	定期試験		